

Pickup!① 対馬の「美味しい!」を全国に～つしまソムリエ誕生～

9月25日、対馬市はタレントの王理恵さんに「つしまソムリエ」の認定証を交付しました。主に首都圏や福岡都市圏でのイベントなどを通して、自然豊かな対馬の食材をPRしていただく予定です。

王理恵さんは、世界のホームラン王：王貞治さんの次女。タレント活動のほか、野菜ソムリエや穀物エキスパートの資格を持ち、食の重要性を伝える活動に力を入れています。

王さんは「父からも『対馬のお役に立てるように頑張りなさい』とエールをもらいました。自然豊かな“対馬”を自分の“ふるさと”だと思い、全国に発信していきます」と決意を語りました。



右：対馬観光物産協会
庄野伸十郎会長

負けられない戦いが、ここにはある

Pickup!②

9月2日、第58回対馬島民体育大会（球技・武道）が開催されました。各競技とも11月に開催される長崎県民体育大会の出場権をかけた「負けられない戦い」が展開されました。

1位のみ掲載・敬称略

競 技	部 門	優勝者(町)名	競 技	部 門	優勝者(町)名
軟式野球		厳原町	ソフトボール	一般	美津島町
バレーボール	男子	美津島町	卓 球	壮年SP	美津島町
	女子	上県町		実年SP	上対馬町
バスケットボール	男子	美津島町		団体	厳原町
	女子	厳原町	一般男子	西山哲	
テニス	男子	厳原町	壮年男子	平山康博	
	女子	厳原町	ベテラン男子	小島忠孝	
ソフトテニス	団体	美津島町	一般女子	島崎泉	
	一般男子	大西大輔・木寺傳	ベテラン女子	小島桂子	
	一般女子	玉田史織・須川美香	剣 道	団体	厳原町
	成年女子	阿比留るみ子・永留恵美	剣道形	厳原町	
	壮年男子	小田康智・梅野菊次	24歳以下	島居邦洋	
	壮年女子	平江千賀子・小田幸子	34歳以下	中村誠	
	壮年男子 部	大久保誠・藤井和男	44歳以下	九谷亮	
バドミントン	男子	厳原町	54歳以下	岩佐光信	
	女子	厳原町	55歳以上	宮原三男	
ゲートボール		厳原町(清水ヶ丘)	女子	八島紀美	
グラウンドゴルフ	男子団体	上対馬町A	弓 道	団体	厳原町C
	女子団体	美津島町B	男子	川辺裕章	
	男子個人	吉村三俊	女子	川辺真由美	
	女子個人	三山富美枝	柔 道	個人	新里哲史



平成24年度 長崎県商工会青年部連合会 若い経営者の主張大会 県知事賞受賞

青年部活動と地域振興・まちづくり

対馬市商工会青年部 脇本周一

皆さんこんにちは。私は対馬市商工会青年部の脇本周一と申します。私の地元対馬は日本海の西に浮かぶ、南北約82キロ・東西18キロの細長い島で、面積の89%を山林が占める自然豊かな島です。

さて、本日のテーマにもある地域振興とは何か？私は「自分たちの住むこの場所はこんなにも素晴らしい。この良さをぜひ体験しに来て欲しい」という、地域を愛する気持ちこそが、地域振興・地域活性化の第一歩だと思います。そこでわれわれ青年部は、自分たちに一体何ができるのか、どうすれば地域活性化に繋がるのか、みんなで考えていました。そんな中、今から3年前のある定例会の時のことでした。当時の部長から「俺たちの手で7年ぶりに、“おっどん祭り”を復活させようじゃないか」という提案がありました。

おっどん祭りの「おっどん」とは、俺たち、私たちという意味です。この祭りは平成14年まで18年間続いていた恒例の夏祭りでした。しかし、復活させるにもほぼゼロからのスタートで部員からは不安の声もありましたが、町おこしのため、子ども達のためにと青年部主催で復活に向けて動き出すことになりました。過去の資料や、対馬の他の地域の祭りなどを参考にみんなでアイデアを出し合いたくさんの会議を重ねました。子ども達に喜んでもらうためにローカルヒーローショーも企画し、衣装の制作・ショーの構成・練習など、10分ほどのショーに何十時間も費やしました。そんな、私たちの苦勞を一気に吹き飛ばしてくれたのは、祭り当日の子ども達のたくさんの笑顔や大きな歓声でした。

そして祭りと言えばやはり“花火”です。子どもたちにどうしても花火を見せたかった私たち青年部は、地域の方々のお宅を訪ね、花火のための寄付集めをさせていただきました。そんな私たちにみなさんは、多くの寄付金とそれ以上の暖かい想いを預けてくださいました。お陰で2年に1回ではありますが、花火をあげられる事となりました。

2010年8月21日。祭りを復活させて2年目の夏。花火の夏です。関係者を含め、総来場者数のべ3000人。花火、約1600発。一般的に花火1600発というのは、少ない数かもしれません。しかし、その一つ一つに、地域の方々の暖かい心、青年部のメンバーの熱い想いが込められていました。そして終わった後の達成感はすばらしいもので、今でもあのときの感動を覚えています。それと同時に、やり遂げることの難しさ、チームワークの大切さなど今後の人生に必ず役立つであろう様々なものを経験することができました。これからもこの祭りを続けて行くことで、少しでも地域おこしに貢献できればと思います。

そして、私たち青年部が熱くなっているものは祭りだけではありません。もう一つあります。それは、対馬のソウルフード“とんちゃん”です。

一般的には味付けホルモンのことを「とんちゃん」と言われていますが、私たちのとんちゃんは、豚の肩ロースを独自の甘辛ダレにつけ込んだ、われわれ対馬市民にはとてもなじみ深いものです。平成22年2月、このとんちゃんを使って全国に対馬をPRし、地域おこしの起爆剤になるうと、“とんちゃん部隊”を設立しました。同年3月にパサージュ広場のイベントで福岡デビューし、4月には“第2回九州ご当地グルメコンテスト”で優勝することができました。この時の優勝がのちの活動に大きな勢いをもたらしてくれました。こういったイベントは、土曜日、日曜日と2日間開催されます。前日の金曜日に開催地へ行くので、この間、仕事を約3日休むことになるのですが、それでもとんちゃん部隊としてイベントに参加できているのは、他にもない家族の理解と協力のおかげだと思っています。

私たちとんちゃん部隊はB-1グランプリを主催している“愛Bリーグ”に加盟しており、今年1月に今までの準会員から正会員に昇格いたしました。80団体加盟している中で、離島の団体では初めて“B-1グランプリ”出場権を得ることができました。このB-1グランプリでは、日本全国の自慢の料理が提供されます。しかし料理を売ること自体を目的としているのではなく、“料理を通じて「地域をPRする」こと”で、一人でも多くのお客様に各地域に足を運んでもらおうという、“地域活性化を目的”とした「まちおこしイベント」です。料理を含めたまちおこし活動の日本一を決めるイベントなのです。もちろんとんちゃん部隊も、とんちゃんを売るのが目的ではありません。とんちゃんを活用することによる、地元対馬の町おこしを目的としています。

そしてB-1グランプリ当日には2日間で50万人以上集まり、料理の味だけではなくお客様に対する対応や地域をPRするパフォーマンス、おもてなしの対応などを含め総合的に評価され投票されます。投票は箸によって行われ、その箸の重量でどの団体がグランプリを受賞するかが決まります。グランプリを受賞した地域は一気に知名度が上がり、テレビや雑誌に取り上げられる機会が増え、観光客が増加するなど、さまざまな経済効果が期待できるのです。そして今年のB-1グランプリは10月20日(土)、21日(日)に北九州市小倉で開催されます。私たちは、小倉開催の今年がチャンスだと考えております。それは地元九州で開催されるということと、初参戦だからです。ここで上位に入れば、全国に対馬というまちを広く、そして強くPRすることができると思っています。

私たちは昔からみんなに親しまれてきた食材を活用したこと、メンバー全員のチームワーク、対馬を盛り上げたいという熱い気持ちでここまでやってこれることができました。祭りを成功させた自分たちの団結力を信じ、離島というハンデを乗り越え“B-1グランプリ”で離島初・長崎初の日本一を目指したいと思っています。

